

二〇二〇年一月三日

大鳥居大注連縄の香を潜る
寒風を孕む庭師の法被かな
大冬木透きてオリオン輝ける
乾杯の手を翳しあふ初座敷
初読は母の遺せし子規句集

智恵子
せいじ
はく子
たか子
素秀

二〇二〇年一月二日

うち揃ひピース合唱初写真
初座敷書院障子に松の影
初旅は日本海の蟹料理
網棚のバッグに刺さる破魔矢かな
参燈の灯りに開く初神籤
句の道が余生の支え去年今年

たか子
菜々
董雨
素秀
素秀
宏虎

二〇二〇年一月一日

注連縄に雀来てをる朝かな
畑道に子等も並びて待つ初日
ほろ酔ひのワインの染みか日記果つ
長々と鳶の笛ふる初御空

ぼんこ
そうけい
なつき
やよい

二〇一九年十二月三十一日

大晦日籠城のごとキッチンに
恙なく生かされし身よ去年今年
健康に勝るもの無し晦日蕎麦

満天
宏虎
かかし

二〇一九年十二月三〇日

裾の辺の薄汚れせし古ごよみ
寝正月大河ドラマの総集編
いささかの仕事を残し年暮るる
夜回りの拍子木と声揃はざる
果大師買ひしブーツに履き替へて

たか子
こすもす
素秀
満天
なつき

二〇一九年十二月二十九日

推敲の刻を重ねる膝毛布
格子窓斜に貫きて冬日さす
色のなき庭にほのかや蠟梅花
千体地藏お顔それぞれ冬帽子
黒豆の艶上々や年用意

そうけい
せいじ
智恵子
ぼんこ
こすもす

二〇一九年十二月二十八日

賀状書き終へて安堵の仕舞風呂
我がメモに嫁てきばきと年用意

せいじ
菜々

毎日句会みのる選・二〇二〇年一月五日